

麦類の赤かび病の防除と今後の対策を徹底しましょう！

1 播種の遅れた小麦

[現在の状況]

5月6日以降、高温・多湿の日が続き、地域によってはたびたび降雨があった。この時期に出穂・開花期となった小麦では、赤かび病の発病のおそれがある。

[防除対策]

生育が遅く、5月上旬に出穂・開花期をむかえた小麦については、開花期における1回目の防除の7～10日後に2回目の防除を行う。

薬剤の選定には病害虫情報 No. 1（4月6日発行）等を参考にする。農薬を使用する際には、使用薬剤の収穫前日数、使用回数に十分注意する。

**農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項等を確認のうえ使用する。
また、薬剤散布の際は、周辺作物等への飛散（ドリフト）に十分注意する。**

2 麦類全般

[今後の対策]

倒伏や収穫の遅れにより赤かび病の発生が助長されるおそれがあるため、適期収穫につとめる。
また、収穫後は速やかに乾燥・調製を行う。

明らかに発生が認められる圃場については、健全圃場とは収穫・乾燥・調製を分けて行い、製品を分別管理する。

調製の際には、粒厚選別をきちんと行うとともに、さらに比重選別を行うなどして、充実不良の粒をできるだけ排除する。